



出前講座報告書



福島県立医科大学

性差医療センター
災害医療総合学習センター
医学部公衆衛生学講座

平成28年1月25日 郡山市保健所

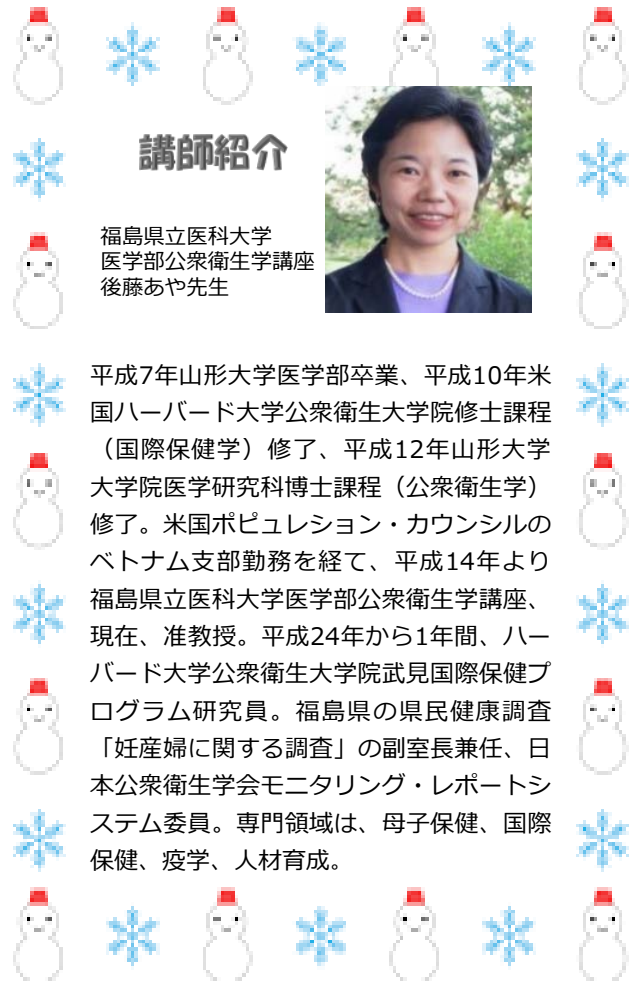


テーマ ヘルスリテラシー ～健康情報を使う力、伝える力～

ヘルスリテラシーは、健康に関する情報を住民が入手して、理解し、使おうとする知識と技術だけでなく、保健医療従事者側が伝えるスキルまでをも含みます。この研修では、伝えるスキルに注目しました。

講義の様子

いつもは2回シリーズで行っている内容を、1回に詰め込みましたが、皆さん熱心に取り組んでいました。前半の内容は、ヘルスリテラシーの概念と重要性、情報のわかりやすさを評価するツールについてでした。後半の内容は、情報をより分かりやすく改訂するテクニックについてでした。続いて、研修で学んだことをグループで話し合って復習をしました。



講師紹介

福島県立医科大学
医学部公衆衛生学講座
後藤あや先生



平成7年山形大学医学部卒業、平成10年米国ハーバード大学公衆衛生大学院修士課程（国際保健学）修了、平成12年山形大学大学院医学研究科博士課程（公衆衛生学）修了。米国ポピュレーション・カウンシルのベトナム支部勤務を経て、平成14年より福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座、現在、准教授。平成24年から1年間、ハーバード大学公衆衛生大学院武見国際保健プログラム研究員。福島県の県民健康調査「妊産婦に関する調査」の副室長兼任、日本公衆衛生学会モニタリング・レポートシステム委員。専門領域は、母子保健、国際保健、疫学、人材育成。

アンケート集計結果

参加者は21名、アンケート回収は20名でした。

評価項目	「そう思う」*
研修の資料や進行について	
配布資料は適切だった	100%
時間配分は適切だった	65%
進行は適切だった	100%
研修の内容について	
講義(基礎)について理解できた	100%
講義(応用)について理解できた	85%
講義は今後の保健活動に役立つと思う	100%
話し合いは今後の保健活動に役立つと思う	100%

*5段階評価：「1. 全くそう思わない」～「5. 大いにそう思う」の4と5の合計

学んだ技術の活用については、配布物の作成のみならず、口頭でのコミュニケーションの報告もありました。また、職場での意識向上も大切です。



1か月後の振り返り

1か月後アンケート配布は21名、回収は19名でした。

	自信なし	自信あり
活用しなかった(N=4)	4 (100%)	0 (17%)
活用した(N=15)	5 (33%)	10 (67%)

74%が「学んだことを保健活動に生かした」と回答し、また、53%が「健康情報の分かりやすさを評価して、より分かりやすく改訂する自信がついた」と回答しました。注目すべきは、生かした人の方が、自信がついた人が多いことです。(P値=0.03 フィッシャーの直接確率)

皆様の声

「チラシ作成時に参考となった。」

「市民と面談し説明する際にできるだけわかりやすい言葉で伝えよるように心がけた。」

「職場での日常会話の中にヘルスリテラシーについて話すことが気づきを持たせる。」



限られた時間での研修だったので、今後はもつと演習や実践を通じて学びたいという意見が聞かれました。平成二十八年度のヘルスリテラシー研修は、数値の伝え方と専門用語の言い換えに重点をおいて継続します。またのご参加をお待ちしています！

(後藤)

編集後記

復習ポイント

- ・ヘルスリテラシーの意義は？
- ・健康情報のわかりやすさを評価するツールは？

